

JCM2016年 年頭所感

2016年 加盟5産別の 堅固なスクラムで 世界の仲間と前進を

年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
皆様にとりまして健やかで実り多き1年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



金属労協(JCM) 議長
相原 康伸

強固な国内事業基盤と 産業の持続可能性を高める取り組みを

日本経済は、2014年末から2015年前半にかけて回復の基調を辿ってまいりましたが、その後、景気は弱含みの状況にあります。ただし、中期的には、円高是正による国内投資の拡大、都心の再開発や2020年東京オリンピック・パラリンピック開催など、底堅く推移することが予想されています。一方、労働市場は人手不足の状況にあり、中小企業では人材確保がままならず、賃金・労働諸条件の向上は、まさに持続的成長の前提条件ともなっています。

金属産業全体としては、懸命な職場の努力に支えられる形で、一部業種、業態を除き増収増益基調を維持し、リーマンショック以降、企業体力は着実に強化されてきました。2014年、2015年の金属労協の賃金闘争においては、「デフレ脱却」と「経済の好循環」に向けて着実に成果をあげてきましたが、2016年闘争においても、継続的な賃上げを獲得すべく取り組みを推進してまいります。今次闘争の最大の取り組み課題は、

「賃金の底上げ」と「賃金格差の是正」です。とりわけ、バリューチェーンにおける「付加価値の適正循環」を重要課題として取り組みを進めます。具体的には、金属産業のあらゆる業種・業態の段階において適正に付加価値を確保するとともに、人への投資、設備投資、研究開発などに振り向け、強固な国内事業基盤と産業の持続可能性を高めてまいります。

インダストリオールの中核組織として役割発揮を

本年秋開催予定の第2回インダストリオール・グローバルユニオン世界大会に向けては、アジア太平洋地域議長を担う組織として、世界140カ国5,000万人を組織するインダストリオール・グローバルユニオンの運動に積極的に参画するとともにアジアを中心とした日系多国籍企業の建設的な労使関係構築の前進に向け、期待される中核組織としての役割を果たしていかなくてはなりません。

本年7月の参議院議員選挙をはじめ、われわれが乗り越えていくべき課題は少なくありません。本年も加盟5産別が堅固なスクラムを組み、世界のインダストリオールの仲間と力を合わせつつ、「民間・金属・ものづくり」の視点から、働く者の権利と地位の向上、生活の安定・向上に積極的に取り組んでまいります。金属労協へのご理解とご協力をお願いし、新年のご挨拶とします。

第58回協議委員会を開催



満場一致で闘争方針を決定



賃金底上げ・格差是正が最大の課題

「2016年闘争の推進」を 機関決定

金属労協（JCM）は、2015年12月4日（金）、東京・すみだリバーサイドホールで、第58回協議委員会を開催した。協議委員会には、招集協議委員141名全員と役員23名、傍聴48名が出席した。女性協議委員は5産別で41名が出席し「第2次女性参画中期目標・行動計画」で目標としている3割をほぼ達成した。

本認識および取り組みの意義について決意を含め挨拶した。続いて、来賓として神津連合会長から挨拶を受けた。審議事項としては、2016年闘争方針「2016年闘争の推進」について浅沼事務局長が提案、加盟5産別から原案賛成の立場で意見・要望が出され、本部答弁の後、満場一致で「2016年闘争の推進」を機関決定した。

冒頭、金属労協を代表して相原議長が挨拶し、2016年闘争の基

2016年闘争方針への産別意見及び本部答弁（要旨）

JAM



JCMが先頭に立ち付加価値の適正配分への取り組みを

平野協議委員

格差是正に向けた不可欠の取り組みとして、「個別賃金要求の取り組み」をさらに強化していきたい。金属労協が打ち出した企業間の付加価値の適正配分に向けた取り組みは大変重要であり、幅広い世論形成に向け、先頭に立って推進することを強く要望する。

企業内最賃協定は、JCMの水準で検討している。格差是正の観点から、年齢別最賃協定締結の取り組みも重要と考えている。

特定（産業別）最低賃金は、企業内最賃協定の引き上げと、実効性を持つためのあり方についても検討していく必要がある。その検討に当たっては、金属産業でこの水準以下はなくすという「JCミニマム（35歳）210,000円」の考え方が必要であると考えている。

全電線



生活を守るため年間賃金の一部として一時金の取り組みを

阿曾協議委員

2016年闘争においては、賃金構造維持分を確保した上で、実質生活を維持するため、賃金引き上げを図っていきたい。企業内最低賃金についても、18歳の位置づけで協定化を図るとともに、具体的水準については、到達闘争として取り組んでいきたい。

一時金については、生活水準の維持・向上を図るための年間賃金の一部として、組合員の生活を守る観点から主張していきたい。また時短については、時間外労働の圧縮などに取り組むとともに、長時間労働の是正に取り組んでいきたい。

2016年闘争では、全電線として、組合員の雇用安定と生活の維持・向上に向け、JC共闘をよりどころに精一杯取り組み、最大限努力していきたい。

自動車総連



「労働条件の改善」と「付加価値の適正循環構築」で産業全体の底上げを

中野協議委員

自動車総連としては、JCM方針を念頭に「労働条件の改善」と「付加価値の適正循環構築」に向けて取り組むことで産業全体の底上げを図っていきたい。賃金引き上げについては、これまでの賃金改善分の獲得単組の拡大と獲得水準の向上に取り組むことに加え、非正規労働者に対しても引き続き、賃金・一時金などの処遇改善を図っていく。さらに、企業内最低賃金についても、協定の新規締結や対象者の拡大、水準引き上げに確実に取り組んでいく。「付加価値の適正循環構築」については、様々な業種横断的対応や、働く人に焦点をあてたこれまでの活動を再構築する論議を行っている。

自動車総連全体がスクラムを組み、JCMの皆さんとともに取り組みを進めていきたい。



金属労協議長挨拶 (要旨)

相原 康伸 議長

金属労協の全産別・単組が一枚岩で賃上げ、底上げ・格差是正に全力で取り組む

2014年、2015年闘争に続けて、2016年闘争においても、継続的に賃上げを獲得すべく、金属労協として具体的な要求水準を提起し、「デフレ脱却」を確実なものとし、「経済の好循環」実現に向けて最大限の取り組みを推進していきたい。

「2016年闘争の推進」は、①「賃金・労働諸条件」、②「非正規労働者の雇用と賃金・労働諸条件の改善」、③「政策・制度、産業政策」の3本柱から成っている。

3本柱の1つ目の「賃金・労働諸条件の向上」での最大の取り組み課題は、「賃金の底上げ」と「賃金格差の是正」である。中堅・中小労組を念頭に賃上げ要求組合と賃上げ獲得組合の拡大を図らなければならない。金属労協が一枚岩となり「3,000円以上」の賃上げを核とする賃金・労働諸条件の引き上げに積極的に取り組んでいく。

3本柱の2つ目の「非正規労働者」に関しては、正社員への登用促進、非正規労働者の状況や課題の把握の実施とともに、組合員か未組織労働者かを問わず、具体的な賃金・労働諸条件の改善に取り組むことを打ち出した。

3本柱の3つ目の「政策・制度課題、産業政策」では、適正取引の確立とバリューチェーンにおける「付加価値の適正循環」を重要課題として取り組みを進めていく。

金属労協は、時代、時代におけるパターンセッターとして日本の春闘相場をリードし、社会的な波及メカニズムの先頭に立ってきた。同時に、生産性三原則の実践に基づく日本の春闘モデルとして、今日まで社会的評価を確立してきた。2016年闘争の核心は、労使自治の原則に立って、金属労協に集う全産別・単組が一枚岩となって、賃上げ、底上げ・格差是正に取り組む、確固たる要求策定と強力な交渉展開を果たしていくことにあり、その重要性を再確認したい。



来賓挨拶 (要旨)

神津里季生 連合会長

「底上げ春闘元年」と言われる春闘に

すべての働く者のための連合としても、2016年春闘への取り組みを後々振り返ったとき、「底上げ春闘元年」だったといわれるぐらいの踏み込みをしていきたい。非正規労働者を含め、組合員か未組織労働者であるかを問わず、すべての働く者の賃金・労働条件の向上に取り組むことは極めて重要である。

バリューチェーン全体で賃上げを実施し、適正な成果配分を実現するという踏み込んだ要求水準には、金属労協としての意気込みを感じる。春闘のリーダー役であり続ける金属労協各産別・単組においても、これを前面に掲げ、今後の取り組み・交渉を推進していかれることを願いたい。

2014、2015年と、金属労協の皆さんが引き出していただいた素晴らしい賃上げの成果を、中期的な持続性につなげていけるかが問われる2016年春闘である。皆さんの力に期待するとともに、連合全体のうねりにしていく決意である。

金属労協2016年闘争方針案について構成5産別の代表から原案賛成の立場で意見・要望が出され、一括して浅沼事務局長から本部答弁を行った。

電機連合



「底上げ・底支え」「格差是正」のため、2つの領域を組み合わせる取り組み

松原協議委員

金属労協加盟5産別が一枚岩となって取り組む水準として「3,000円以上」を確認することは、昨年よりも要求引き上げ額は小さいものの、その重みは昨年以上と受け止めている。2016年闘争においてJC共闘の成果を生み出すためには、5産別の従来以上の結束が重要となる。電機連合では、「底上げ・底支え」「格差是正」のため、加盟組合全体で統一した要求とし、賃上げに取り組む部分と、各組合が格差是正に向けて独自に取り組む部分の「2つの領域」を組み合わせる取り組み。また、未組織企業の雇用労働者の底上げに機能を果たす、法定電機最低賃金などに取り組む。「付加価値の適正循環構築」については、「強固な国内産業の構築を図る」という目標に向け、産業政策、政策制度の取り組みを通じて、通年で取り組んでいきたい。

基幹労連



働く者すべてに波及する社会的取り組みの展開を

向井協議委員

働く者すべての賃金の引き上げ、労働諸条件向上による個人消費の喚起こそが「デフレ脱却」「経済の好循環」に不可欠の要素であると考えます。基幹労連は、2年サイクルの「基本年度」として「魅力ある労働条件づくり」と「産業・企業の競争力強化」の好循環を追求し、「人への投資」に向けた取り組みを展開する。また労使で「働き方改革」を進め、育児や介護など様々な家庭環境の中でもモチベーションを高く働き続けていけるようワーク・ライフ・バランスの実現に取り組んでいく。

金属労協には、春闘を牽引する重要な役割を果たしつつ、労働条件の底上げ・底支え、ワーク・ライフ・バランス実現によって、人を基軸としたものづくり産業の発展はもとより、働く者すべてに波及する社会的取り組みを展開していただくようお願いしたい。

本部答弁



2016年闘争を「転換点の春闘」に

浅沼事務局長

2016年闘争に取り組む上で大きな3つのキーワードがある。まず「底上げ・格差是正」は、中堅・中小労組への波及という意味でも大きなキーワードの一つである。もう一つは、「付加価値の適正循環の構築」である。幅広い普及・展開に向けて、一歩前進させなければならない。3つ目は「非正規労働者への対応」であり、企業内最低賃金の取り組みも重要である。同時に、地域別最低賃金を上回る特定最低賃金の引き上げに向けた取り組みの強化が求められている。

3,000円以上の取り組み水準について「重みは昨年より増している」との発言があったが、ぜひ金属労協一枚岩で取り組み、勝ち取っていきたい。2016年闘争は「転換点の春闘」になるかもしれない。いや、そうしなければならない。「言うは易し、行うは難し」であるが、ぜひ、金属労協の仲間と支え合いながら闘争を進めていきたい。

2016年10月第2回世界大会 (ブラジル・リオデジャネイロ) まで1年を切る

2015年12月9～10日、カンボジア・プノンペンでインダストリアル執行委員会が開催された。アジア太平洋地域でのグローバル執行委員会の開催は、2012年の3GUF（国際産業別組織）が統合し、インダストリアルが結成されて以降初となる。執行委員会前には、アクション・プラン委員会、規約委員会、加盟費作業部会等が開催された。全世界から執行委員・オブザーバー含め約200名が集結し、日本からは、インダストリアル・JAF、UAゼンセンの他、JCMより相原議長、浅沼事務局長他国際局が参加した。



全世界から約200名が参加

加盟費作業部会が終結、大枠は執行委員会で確認 今後詳細は規約委員会にて議論

12月9日、加盟費作業部会が開催され、部会案が執行委員会で確認された。加盟費については、2012年結成大会で確認した「インダストリアル・グローバルユニオン結成に関する政治的合意」に記載の通り、旧3GUFの活動を担保するべく、「2016年までの移行期間は、加盟組織は2013～2016年の年間加盟費納入レベルを少なくとも維持」するとしているが、部会では2016年世界大会以降の加盟費制度に向けて検討がなされてきた。現在までの主な合意事項は、次の通りである。

- ・全組織が適用する透明性のある制度構築
- ・1人当たりGNI（国民総所得）に基づく13段階の加盟費グループ制度（現行6グループ）
- ・移行期間の必要性（1大会期間4年）

現行の年次加盟費水準については、1.1CHF（旧IMF）～2.94CHF（旧ICEM）まで幅があるが、新統一加盟費水準については、今後の活動を検討した上で会長・書記長で議論し、来年5月執行委員会にて提示されることとなった。

残すは、2016年5月執行委員会のみ

次回執行委員会は、2016年5月25～26日、トルコ・イスタンブールで開催される。2016年1月20日には、日本でアジア太平洋地域執行委員会が開催される。

JCMとしては、ドイツIGメタルに次ぐインダストリアル加盟組織として、アジア太平洋地域議長組織として、インダストリアル国内加盟組織であるインダストリアル・JAF、UAゼンセンとも連携しながら積極的に議論に参画していく。

2016年以降のアクション・プラン、規約の検討が本格化

12月8日、アクション・プラン委員会、規約委員会が開催された。いずれも、2016年世界大会以降の活動に関わる重要な委員会であり、日本からはJCM相原議長が規約委員会委員として選出されている（アクション・プラン委員会は、電力総連岸本会長が委員）。アクション・プランについては、「組合の成長の構築」「グローバル資本への対抗」「労働者の権利擁護」「不安定雇用との戦い」「持続可能な産業関連雇用の確保」の5つの基本戦略を元に、2016年以降も進めていく方向で議論がなされている。

規約については、執行委員の数・地域別内訳、女性参画、地域の役割等が議論された。女性参画については、9月にオーストリア・ウィーンで開催された世界女性会議の決議を受け、リーダーシップにおいて40%の参画を達成していく方向で議論がなされているが、適用タイミング（2016年か2020年からなのか）、ポスト（特に副会長3席・書記次長3席）をどう考えるのか等、引き続き議論することとしている。

今後、アクション・プラン、規約改定について、2016年2月末までインダストリアル加盟組織より意見集約をした後、4月13日、14日に開催される規約委員会、アクション・プラン委員会での議論を経、最終案が5月の執行委員会で提示されるスケジュールとなっている。

第24回参議院議員選挙 JCM推薦候補

2016年7月に第24回参議院議員選挙が実施されます。金属労協では、下記5名を推薦候補として選挙活動に取り組みます。金属産業の政策・制度課題の改善を実現できる候補を国政の場へ送り出しましょう。



みんなでつなげる 明るい未来

はまぐち誠
＜新＞
（自動車総連）



あなたと動けば、未来は変わる。

矢田わか子
＜新＞
（電機連合）



もろくろく、もろくろく、もろくろく、もろくろく

藤川しんいち
＜新＞
（JAM）



もろくろく、もろくろく、もろくろく、もろくろく

とどろき利治
＜前参議院議員＞
（基幹労連）



平和、安心日本

やなぎだ 稔
＜現3期＞
（基幹労連 重点候補）

第1回戦術委員会を確認
集中回答日は3月16日（水）

金属労協は第1回戦術委員会において、連合方針を踏まえ、JC共闘の集中回答日を3月16日（水）とすることを確認した。